

学校だより

9月号

一中の桜並木

令和8年9月2日

「教育目標」

考える人 思いやりのある人

助け合う人 成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校

校長 宮城 洋之

「防災の日」に思うこと

校長 宮城 洋之

38 日間の夏休みを終えて一中生が学校に戻ってきました。今年の夏の過ごし方はどうだったでしょうか。

さて、今年 4 月、気象庁は最高気温が 40 度以上の日を「酷暑日」と命名しました。ひと昔前は 40 度以上の気温はもちろん体温越えの気温ですら稀だったと思うのですが、「酷暑日元年」となった今年、全国的には 5 日連続で酷暑日を記録するなど、まさに想像を絶する災害級の暑さとなりました。

こうした暑さだけではなく、各地での自然災害が目立つ夏でもありました。7 月末の熊本地震に続いて 8 月中旬には記録的な豪雨が千葉県を襲い、月末には北陸地方も豪雨により甚大な被害を受けています。

そんな中、夏休み最後の日曜日となった 8 月 23 日未明には茨城県南部を震源とする地震が発生し、都内でも震度 5 弱が観測されました。慌てて飛び起きた人もいたと思いますが、飛び起きた後にどのような行動をとることができたでしょうか。

学校では、突然の地震に対して即座に安全な場所を見つけて自分の身を守る「シェイクアウト訓練」を定期的に実施しています。予告なしで実施することもあるため瞬間的な状況判断が問われる訓練ですが、多くの一中生はおおむね適切な行動をとることができています。

しかし、今回の地震のように就寝中だった場合、さらに暗闇の中だった場合はどうでしょうか。とっさの行動がとれるかという点と難しいのではないのでしょうか。そう考えると、やはり日頃の備えや訓練をより「リアル」な状況を想定して行うことが大切なのだと思います。

☆ ☆ ☆

今年度、第一中学校は三鷹市総合防災訓練のメイン会場になります。7 年に一度の大規模訓練ですので三鷹市・消防署・地域も交えた準備がすでに 1 学期から着々と進められています。

東日本大震災や阪神・淡路大震災など、日本がこれまでに直面してきた大災害の経験から地域防災における中学生の力が注目されてきました。小学生の手を引いて避難する中学生たちの姿が大人たちの避難行動を促し、多くの人命が救われた例や、避難所の設営や運営に中学生が大きな役割を果たした例など、様々な事例が報告されています。今回の総合防災訓練でも一中生のボランティアを募集しますので、当日の都合がつく人は参加を検討してみてください。「助けられる側」ではなく「助ける側」になることを考えてみましょう。

令和 8 年度三鷹市総合防災訓練は、10 月 25 日(日)午前中の予定です。